

- 1 教育事業名 「とかしきボランティアスクール及び自然体験活動指導者 (NEAL リーダー) 養成事業①」 ～学ぼう自然を！磨こう自分を！～
- 2 ね ら い これからボランティア活動をはじめの方を対象にボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動に向けた期待と意欲を高めるとともに、必要な基礎的知識・技能を習得させる。
- 3 期 日 平成 29 年 5 月 3 日 (水) ～ 5 日 (金) 2 泊 3 日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 30 名程度
- 6 参加人数 22 名
- 7 参加者内訳 高校生 4 名・大学生 18 名 (男性 8 名、女性 14 名：県内 22 名)
- 8 講 師
 - ・大城和樹氏 (サンセットビーチライフセービング)
講義・演習「ボランティア活動の技術」
 - ・小倉宏樹氏 (よみたん自然学校代表)
「自然体験活動指導者 (NEAL リーダー) ガイダンス」
 - ・音野太志氏 (特定非営利活動法人沖縄ウォーターパトロールシステム)
講義・演習「安全管理」
 - ・平野貴也氏 (名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科教授)
講義「青少年教育」
 - ・水澤豊子 国立沖縄青少年交流の家 次長
講義「青少年教育施設の現状と運営」
 - ・竹内弓人氏 (法人ボランティア)
講義「ボランティア活動の意義」
 - ・味吉智大 事業推進係企画指導担当ボランティアコーディネーター
講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」

9 実施プログラム

	10:00	11:30	12:00	13:00	14:15	16:00	18:00	19:30	21:00	22:30	
5月3日(水)	とまりん集合	フェリー とかしき	開 講 式	昼 食	講義① 「青少年教育施設 の現状と運営」	講義② 「ボランティア活動 の意義」	講義③ 「青少年教育施設 におけるボラ ンティア活動」	夕 食・ 入 浴	グ ル ー プ ワ ー ク④	情 報 交 換 会	就 寝
	8:00	9:00	10:30	12:00	13:00			19:00	22:30		
5月4日(木)	ど い	朝 食・ 准 備	グ ル ー プ ワ ー ク④	移 動 テ ン ト 設 営	昼 食	講義・演習④ 「ボランティア活動の技術」			グ ル ー プ ワ ー ク④ 「 キャン プ ファイ ヤー」	就 寝	
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:30	16:40	18:10				
5月5日(金)	朝 食	テ ン ト 撤 収	グ ル ー プ ワ ー ク④	「 ガイ ダ ン ス」	昼 食	講義⑤ 「青少年 教育」	講義・演習⑥ 「安全管理」	閉 講 式	マ リ ン ラ イ ナ ー と か し き	解 散	

10 事業の様子



講義「青少年教育施設の現状と運営」



演習：海洋研修



演習：テント設営



講義「青少年教育」



講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」



演習：海洋研修



演習：海洋研修



講義「ボランティア活動の意義」



キャンプファイヤー



講義・演習「安全管理」

11 エピソード（アンケート・参加者の感想）

- ・これから将来のことを考えていく上で、ボランティアをきっかけとして取り組むことができたなら良いと思った。
- ・先輩ボラのアイスブレイクでいっきに仲良くなれたので年の差をこえて楽しく過ごせた。
- ・班で協力することが沢山あり、知らない人と関わる機会が増えて良かった。
- ・今まで体験できないことができて良かった。
- ・とても楽しむことができた。子供を相手にするときの注意点や、海に入るときに注意点を理解できた。
- ・楽しく学ぶことができた。
- ・初めての体験や、出会い、初めて知ることもあり得たものが大きい。
- ・「海洋研修」「安全管理」の中で、リスクについて考えることは今回一番はっとさせられた。つつい忘れがちになるが、リスクがあることを認識し、マネジメントした上で安全に楽しむことを、今後、常に心がけたい。

12 担当者所見

（1）成果

ゴールデンウィークの2泊3日開催にしたことで、前年度より多くの参加があった。ボランティア活動を行うにあたって必要な知識・技術を体得し、「グループワーク」を通してボランティアに対する考えを深め、事業の企画を体験することで、10月のボランティア自主企画事業のイメージづくりと、職員・ボランティア同士のイメージの共有をおこなった。積極的に企画活動を行っていた様子から、今後のボランティア活動への期待が感じられた。リーダーとして参加した先輩ボランティアからも多くのことを学んだ様子である。

（2）課題

- ・今後継続して活動してもらうために、ボランティア同士のつながりを強めるのはもちろんだが職員との密な情報共有をおこなっていく必要がある。
- ・参加者数と幅広い年齢層の参加者を確保するために、広報の方法や開催時期についてさらに検討していく必要がある。